

保存年限	永・10・6・3・1 年	文書番号	8月-1-1	報告書 (1)	
<input checked="" type="checkbox"/> 開示	<input type="checkbox"/> 一部開示	<input type="checkbox"/> 不開示(理由: 条例第 条第 号 該当)			
<input type="checkbox"/> 時限不開示 (開示: 年 月 日)					
議長	副議長	局長	次長	係長	係

平成30年 4月 27日
 会派名 糸魚川21クラブ
 代表者名 田原実
 報告者名 田原実

当会派は、下記のとおり視察したので、報告いたします。

記

1、視察議員名
 田原実

2、視察期間
 平成 30年 4月 19日 (木) から
 平成 30年 4月 19日 (木) までの1日間

3、視察先
 公立大学法人 長岡造形大学

4、視察目的と概要

1、糸魚川市駅北復興まちづくり計画について (長岡造形大学生からの提案調査)
 <スケジュール>

9:00 糸魚川市役所にて企業支援室担当職員よりヒアリング
 糸魚川発 10:00 えちごトキめき鉄道～特急しらゆき
 長岡着 11:38
 長岡造形大学まで路線バス利用
 調査 12:10～13:30 *長岡造形大学の都合による
 長岡駅まで路線バス利用
 長岡発 14:43
 糸魚川着 16:55
 なお当初予定していた

2、糸魚川地域医療体制確保について (米山新潟県知事への要望)
 3、郷土出身者の顕彰について (会津八一記念館展示と前記念館移設の経緯)
 については、米山知事との面会が出来なくなったため、中止としました。



5、レポート

糸魚川大火からの復興計画に関わっていただき「雁木とまちづくり」についての提言書『3つのまち展～のぞいてみよう建築学生のあたまの中』を作成し、糸魚川で市民にむけてプレゼンしていただいた長岡造形大学のご担当の先生と生徒さんたちに会ってお話をうかがいました。

糸魚川市担当課にお願いしての訪問でしたが、造形大学地域協創課の関さまより対応していただき、構内も案内していただきました。美術大学の建物に入るのは数年前の武蔵野美術大学以来ですが、模型や作品が展示してあり、学生たちもちょっとおしゃれです。

調査の目的である糸魚川大火からの復興まちづくりにおける大学連携については、建築・環境デザイン学科准教授の津村先生と津村研究室の学生さんと糸魚川出身で建築デザインを学ばれている学生さんが田原の以下の質問に答えてくださいました。

質問一 1、大火の跡地をみて、これから街が再生復興すると感じたか？

答え

- ・大火後、数日して行った。小学生のころから青海から糸魚川へひとりでバスを使って行っていたので、慣れ親しんだ雁木の街並みが無くなっていて悲しかったというか、もう無いんだなみたいな感じ。2回目は瓦礫（がれき）が撤去されてから行った。その時は昔見た景色がすっかり無くなっていて、お店はもどってこれる可能性は僕はあると思う。
- ・現地へ行ったときにはガイドさんなんかと一緒に見てまわって、ここがこうだったんだよと火事の前の建物なんかの写真をを見せてもらったが、焼けてしまうと何があったのかわからなくなってしまう。雁木がちょっと残っているところがあったが、はじめて来たものにとってはさみしい感じがした。お店を同じ場所で開きたいという方もけっこういて、びっくりしたことでもあるし良いことだと思った。
- ・市民の方とあまり話していないというのもあるが、駅から海側のほうしか足を運んでいなくて、その反対側（山側）に行ったのは1回とかだったが、何か線路で分けられている感じがした。なので駅向う（山側）の人をよびこめたらまちづくりはできるのかな？という感じはした。

質問一 2、糸魚川へ来て、誰と会ったか？（どんな話をしたか）

答え

- ・お店の方とは会っていない。あまり市民の方と話す機会がなかった。街を歩いてちょっとしゃべったり声をかけられたりといったくらいだ。
- ・ほぼ市の方たちで、市民の方とはほとんど会ってない。
- ・加賀の井の小林さんと鶴来家さんが必ず毎回打合せにいらしていたが、市民代表というよりは、あそここの場所のある種有力者ということで理解をしていた。いろんなことは代弁されていたかなと思う。

質問一 3、「雁木」は復興のまちづくりに必要と思うか？

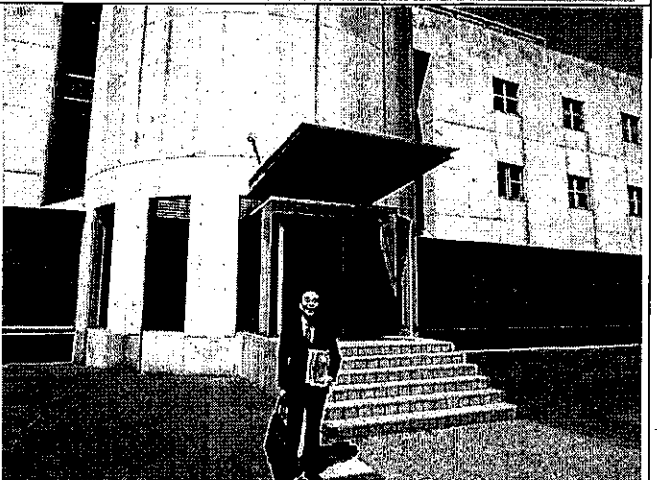
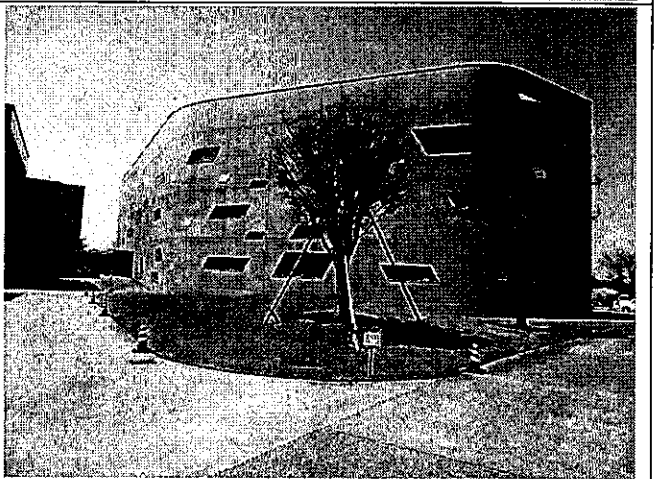
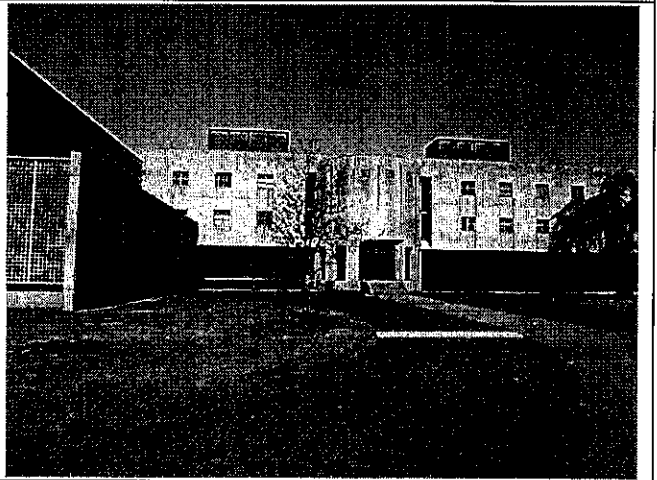
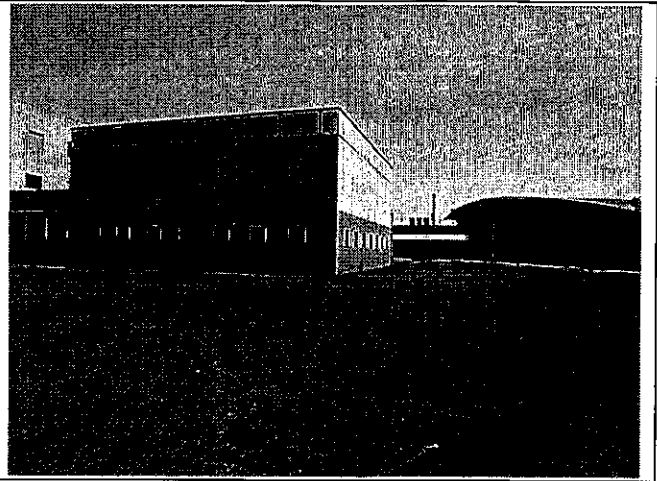
答え

- ・雁木絶対やらなくちゃいけないんだよねということでは、学生は率直に雁木ははたして必要なのみたないところもあり、またアンケート調査結果では雁木をあまり望まない市民もいるというふうにも読めたが、復興計画では雁木をつくる、雁木を中心とした街並みを再生するみたいな形で出来上がっているの、どんな雁木をつくったらよいかを考えての提案となった。
- ・自分が住むわけじゃないので何とも言えないが、絶対必要という感じはしなかった。雪がすごく多いわけでもなく、そういう意味では雁木だけにこだわる必要もないかなと少し思った。住民の方の意見とか、直接あったわけじゃないが、アンケートの結果を見た限り、駐車しづらいとかマイナス面の意見がけっこうあって、市民が作りたいというんだったら作ったほうがいいのかと思ってた。
- ・雁木は小さいころも大火がおこる前もそこを歩いていて、一番印象に残っているのは燕（つばめ）だ。燕が巣をつくって、歩いている途中に鳴き声が聞こえて、上を見上げるとヒナが鳴いていたりして。すごい良い思い出が残っている。

まとめ

予想してはいたのですが、学生さんや先生が糸魚川で会って話した人は行政関係者と被災者の一部の方と限定的で、市民とのコミュニケーションが少ないこと、また雁木の町並み整備が今どんな状況か造形大学には伝わっていないことがわかりました。短い時間ではありましたが、さまざまなお話をうかがうことができ、今後の議会・議員活動の参考となりました。

経費面の課題はありますが、ぜひ次回は糸魚川へ来ていただいてお話できればと思います。



左より学生さん、田原、津村准教授